

大阿蘇青少年ボランティアリーダー塾 事業報告書

企画指導専門職 加治佐 秀樹

1. 事業概要

(1) 実施期間

平成26年6月14日(土)～16日(日)

(2) 活動場所

国立阿蘇青少年交流の家

(3) 参加者

26名(高校生:16名 大学生:8名 一般:2名)

(4) 事業内容

1日目 講義①「青少年教育の理解」(村井先生)

講義②「救急救命法」(薄井さん・小木曾さん)

実習①「野外調理(パエリアづくり)」(職員)

講義②「救急救命法」(薄井さん・小木曾さん)

2日目 講義③「ボランティア活動の意義」(村井先生)

講義④「青少年教育施設におけるボランティア活動」(職員)

講義⑤「青少年教育施設の現状と運営」(次長)

2. 成果と課題

(1) 成果

- ① 事業全体を通して、100%の参加者が満足、やや満足と答えていた。「自分で考えて行動するということをいろんな面で体験することができ、成長できた。」「深く考えさせられるものが多く、学びがたくさんありました。本当に貴重な体験になりました。」等の感想があった。
- ② 村井先生・薄井さんの講師二人が事業に最初から最後まで帯同したことによって各プログラムが細切れにならず一貫した流れができた。参加者も自分の気持ちを表現する大切さ、相手の気持ちを推察する大切さなど、ボランティアの意義・役割だけでなく、心構えなどを考える良い機会となった。参加者からも、「ボランティアをする上で、何が大切か?考えるきっかけになった。」「これまでのボランティアを考え直したい。」という感想を得ることができた。
- ③ 参加者から「多くの人と交流することができ楽しかった。」「交流の家の事業に今後も参加したい。」との声が聞かれた。意欲を高めることができたので継続するようしていきたい。

(2) 課題

- ① 県内の大学からの参加者が少なかった。次年度は大学側に理解してもらい、直接広報をとおしてボランティア活動の意義を伝えるなど、広報・募集を工夫しなくてはならない。
- ② 今後の交流の家でのボランティア活動につなげるために、これからの事業や夏休みの業務等継続して、参加の呼びかけをしていく。

3, 活動の様子

①開会式の様子



②ゲームを通して気持ちを表現



③発火点の実験



④ AED の使い方



①班での学びあい



⑥試行錯誤しながら火起こし



⑦話し合いの成果発表



⑧閉会行事の様子

